

足摺岬ヤブツバキ再生プロジェクト

活動を行う団体

足摺岬小学校、清水中学校、環境省土佐清水自然保護官事務所、足摺岬の自然を守る会、土佐清水市観光協会、土佐清水市

活動の実施場所

足摺岬（高知県土佐清水市：足摺宇和海国立公園特別保護地区）

活動の概要

ヤブツバキ林は、足摺岬に自生し、観光資源として重要です。また、地域のシンボルで、市の花でもあります。一方で、地場産業である宗田節生産の蒸籠や、土壁の材料として使われていたメダケが利用されなくなり、メダケが増殖したことで、ヤブツバキ林の存続が脅かされています。そこで、2016年度より、ヤブツバキ再生プロジェクトを開始し、苗づくりや苗の植え戻しを行っています。



育てた苗の植え戻し



地元小学校の授業の様子（メダケの筍とり）

また、プロジェクトの一環として、育苗や、移植後の苗管理の担い手確保が課題であることから、地元小中学校の総合学習の一環として、ツバキ学習を行っています。ツバキ学習では、苗作り（種取り、種まき、鉢上げ）を行うだけでなく、オリエンテーリングゲームを活用し、ツバキ林成立の背景やこの森林の現状について考えたり、メダケを利用する文化について学びます。

学校側の「子どもに地域への理解を深めてもらいたい」という意向と合わせて、単なる作業、体験だけに留まらないようプログラムを工夫しています。また、ツバキの保全活動を継続している足摺岬の自然を守る会は、経験や思いを次世代につなげられるよう、講師を担っています。

また、地元の親子を対象に、プロジェクトのことやメダケの活用を体験してもらうことを目的に、自然ふれあいイベント「メダケで一本釣り！」を実施しています。毎年1回開催し、年間20名程度が参加しています。



「メダケで一本釣り！」の様子